



あつち年

丙申

草旦

みちやきり 夷記 告てり

二卷

民歌

草歳

とそ高海の岸サ、〜 治世
セリキ、終川、〜 ちるを
羊年の甲子、〜 一、
北川、辛子、〜 考運の
つらね、〜

常解て、麻糸、おと、松の、〜 志

草

改正

日の輝も露もあまの神代乃葉

銀重牛

みくに夢ふやまの朝の暁

其碩

まの車ハまの向フり明て門外ナ古

塩夕

おの眼も是ニくニえく福寿ナ川

下中条其川

あまのやハ山ノ一ノ笑ニをハらハ一ノ花

石奴

ま、初也無字も名の書百より

ハニ傳玉

及あけて笑顔、流きも川約執

雲雪

門書やハ一ノ花ニをハ美ニふハ髪

ハニ素木

く川志也影の暮もさハ一ノ仰り

素花

くく知れも松、十事初てりさハ花

善心

初くハ葉ニハハまハよりハ一ノ松ノ春ノ花

如恰

年中の笑ハ一ノめハや福壽ナ川

ハニ呆水

木詠のさハ一ノ振ハもハまハらハ雨ハ花ハ葉

ハニふハ不

美水や汲てきりる身をまよふ 徳次 波子

年代は年代わらぬ妻や鏡餅 止立

福来やま井の斬も妙也も 北川 鴨川

美水や汲てもつきぬ泉 叙 山 籠帆

雫の屋よりしむや福来子 利川

くや志の道もえ、りりし山層 風牛

花ももく海船しきり日か付 女 幸

何となく巧くもちよや初日始也 峰雪

人の気もろくも初より舞の契 叙 思夕 昔和田

ま井能音もま井より西き也 春花

昔を来思連

昔を来

峰幾川徳の山や志此も 東以

門くし山徳や又きて响の妻 叙 吳年

美水やくも歌乃鏡 山 鼓舟

并木の音さくん 或は明高葉 上取戸 鹵芥

一磨くく 冥き初り 奈井一の在 桂木

長井尾一連

孝子房子在中連く

昔年歌へも吹風高——今朝如葉 貞向

海山即何ふふく——て初ま歌 下中表 桂糸

さきも梅ささくくもや 西のんふ 和友

うへも歌もも 尚き又ナしく 梅笑く 秀彦

うふりきはくいさくらや 初ま水 美信 一葦

心くも心 彼けくふや 初ま歌 山枝

君の代のすかりや 或き飾 井 牛素

えはろけ 細ふ脚代や 袋 柳 樗牛

木のつ——花の奴く 福壽草 伊柳

止まうと 老やリ川も 勢くぬ 塩の味 新戒 詠月

面なきものの初や ぬく 春白草 流笑

台——此鑑のひきり初より 秋露

もろくは道このえじ 吉寺始 ^{丘戸} 花礎

真奥

冪ちりかまりぬるやれ 巾 壬午

きのよえ——畠もろり若葉介 鳩夕

吹よあはのや 浅き——初極 笑高

梅咲やあまふと 然衣移まは 斗南

あつあつやろ——かえ——色 素木

冪とまら春は白やん 笑は春 素花

鶴の移——と 詠や 露 乃 臺 雪 山

よろくも 梅とろり 春 若葉小 和 恰

并子 梅のうを 園——て 度 小 其 川

よろくは 舞や 舌く 春 新 小 丁 女

糸 舞や 舞—— 冪く 布 舞 糸 備 玉

春風より洗刷し、御影石 紫雲

貸買下駄のきく有梅は香也 はる 台梅

あま子や端はききん茶弁苗 徳林 煮芝

ふおりのまおひ子号の都山 湖亭

舌はくく山小糸くくきく那 止丘

きくもくまの誦くあはく川下記 唯堂

梅暖や折ハ香と号子分り 利川

圃うきき山やまきくあはく川下記 月津

春の那子是もまやち子 葵心

葵もまきく是はくは能き那う那 东以

日子歳方元と見て真ひくく山 若年

雪存もゆききくあはく川下記 設舟

志有りと風子云々く梅若真 貞河

けく羽根を落て、度 柳地 下中表 桂念

はく鞠の身を控してる柳う那 ナ 川枝

みそ一て廊へきぬまに申 秀老

氏の色はほまぬらそ梅の志 易老

二歳りもさずうらち子切らうら歌 和春

ある節の出入も抑きしころう節 ナ 菜子

多おのりり 魁やけりし ナ 友春

菊もさす之こくとつらの色 ナ 東政

一つてきへはまふてひもうら ナ 東玉

うく我幕川て屋敷う那 ナ 幸山

とちをともやうらにちふのそ花 ナ 又春

ち糸一 是灯なまにこま ナ 幸山

みまや梅のまをそく九那 幸ト

算一葉のまを引出まや ナ 中 東玉

はく風おま ナ 庭んや 該訪の遊 芳玉

みづも小毎の陰を雪も有 河月

晴てうらさくさけく重花羊反 北川

しきや鉄のほぢくそ何とせん 少山

蝶くやさくそくもせん サ びん

東はまの踏つては草々那 中川

映るくゆ子ちけや花の陰 多

早中夜

婦節や涼の亭も仮帯 夏 重牛

妻のうらて梅えふくち子年暮也 其 碩

ふんふれ妻もふくく のき 鳩夕

妻はをたと背り有て来りけり 笑の

多由立本

咲梅のふり もす 年のこうち 英川

解ふもより や 船の枝 既 了ぬ

牛と月 殺せり けり けり

伎玉

まら細と一をけり せり せり

紫雲

酸とのあれり せり せり

素木

下 駿馬のく 杉 逢ふ 逢ふ 逢ふ

素花

杉 逢ふ や 雪と 逢ふ 逢ふ 逢ふ

青山

尾 引く 逢ふ 逢ふ 逢ふ 逢ふ

水枯

花 ちや 雪と 逢ふ 逢ふ 逢ふ

樹子

花もろく 見へ 逢ふ 逢ふ 逢ふ

止丘

小 罽麻の 逢ふ 逢ふ 逢ふ

晴川

出 帆 八帆 逢ふ 逢ふ 逢ふ

峰重

花 ちや 逢ふ 逢ふ 逢ふ

利川

大 夏 荷や 梅の 逢ふ 逢ふ

心籠帆

よ 山 けり 逢ふ 逢ふ 逢ふ

風牛

杉 牛 の ちや 逢ふ 逢ふ 逢ふ

若女

子卯三喜子のつらや御取もつれは 異味

去る人の居るきこふしと 鼓子

うけし舞も立ちとまじりくは梅の舞 柱意

逢申は 赤屋敷一 如の音 貞海

何れもくもはくふきく 陰影は毒 流矢

しとくも有るまらくしと 海鳥 秋露

かくき家の隙と暮らすは 海鳥は 詠月

年内ちま

年のうちををちりり 帆うけ子 芳玉

春興

江戸

ふとくと吹上のをほや 睡月 風化

卯梅や下戸も和ハ子かり 孝家 花酔

入る此帆の音く やうすま 言流 隙

孝家戸の音とくくと取くしと 京 川

冬興

を川書や出くわたり葉の白 公多

水山や暖くわたりて控くる 登 新戒 少年 落 兒

正号息

順房の旦那様をいぶるは ぶ下

何と見たりゆきかきかき前ひたり 然若 雪叩

大瓦

志きゆんと思ふて君をさし 柳 柳二

書法精妙

運斤神活

春休真毛
南教